



労働法

働き始めるあなたへ 知っておきたい基礎知識



労働法には労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パートタイム労働法、最低賃金法などがあります。

働くことに関するたくさんの法律をまとめて「労働法」と呼んでいます。正社員、契約社員、パートタイム労働者など多様な働き方がある現在ですが、雇われて働いている人は、誰でも皆労働法の保護を受けられます(ただし、どのような働き方をするかによって、具体的な適用の内容は変わってきます)。



守られていますか？

労働契約の内容と実際の労働条件が違っていたら、契約通りにするよう会社に要求できる

賃金は、最低賃金(都道府県ごと)より低い額は認められない。支払は本人に現金で全額を、毎月1回以上、決められた日に支払われる

工作中に病気やけがをした労働者は補償を受けられる。会社は労働者の安全に配慮し、**健康管理**に気を配る必要がある

確認しよう

6つのルール

女性と男性が共に生き生きと働き続けることができるように、**性別による差別の禁止**や**仕事と家庭の両立**をサポートする制度等が設けられている

1日の労働時間が6時間/8時間を超える場合には、最低でも45分/60分の**休憩**が必要。また、毎週最低1回(または4週間を通じて4日以上)の**休日**が必要

労働時間の長さは、1日8時間以内、1週間で40時間以内と決まっている。時間外に働いた労働者には、賃金を割り増して支払う必要がある



心と身体を守ろうー3つのハラスメントー

【パワー・ハラスメント】

仕事上の上下関係・権利関係を不当に利用することによる嫌がらせ・いじめなどを指す。

例 *クビにするぞと脅す。

*必要以上にミスを追求。残業の強要。

*人格を否定するような侮辱的な発言・叱責。

*無視する、仕事を与えない。



【セクシュアル・ハラスメント】

性的いやがらせ。特に、職場などで行われる性的・差別的な言動をいう。男性から女性に、女性から男性に対して行われるものをいうが、同性に対するものも含まれる。

例 *体に触れたり、必要以上になれなれしくする。

*職場の力関係を利用し性的な関係や交際を強要。

*性的な冗談やからかい、個人の性的体験談を話す。

【マタニティ・ハラスメント】

妊娠・出産・育児・介護休業等を理由に解雇・契約変更・降格等にする事。

例 *契約更新をするはずだったのに、妊娠の報告を受けたので雇止めとした。

*育休を1年間とりたいと相談されたので、経営悪化等を口実に解雇した。

*「非正規雇用は制度がない」と、産休を認めなかった。



こんな時は？

労働契約が守られない、労働条件について不利益な変更があった、無理にやめさせられた



・総合労働相談コーナー(各都道府県や労働基準監督署内に設置)
<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/chihou/kaiketu/soudan.html>
・管轄の労働基準監督署
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/location.html>



日本の子連れ再婚家庭

新川てるえ著
太郎次郎エディタス社 2017

結婚する4組のうち1組が再婚という時代、偏見をおそれ再婚家庭であることを打ち明けられない人も多く、周囲の理解も進んでいない。当事者119人へのアンケートとインタビューをもとに、子連れ再婚家庭が抱える様々な問題を明らかにし、多様化する家族のかたちを考える。



裸足で逃げる

上間陽子著
太田出版 2017

沖縄で調査をきっかけに出会った、キャバクラ勤務や援助交際をして生活していた10代から20代の女性6人の記録。10代から夜の街に押し出され、妊娠、出産。さらに家族や恋人、男たちから暴力を受ける。どこからも助けはやってこない。生き延びるために裸足で逃げる。

新着図書紹介



キャスターという仕事

国谷裕子著
岩波書店 2017



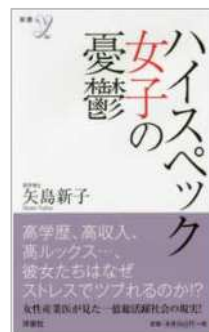
23年間にわたりNHK「クローズアップ現代」キャスターとして、従来のニュース番組とは一線を画し、真摯にそして果敢に自分の言葉で世に問いかけ続けた国谷裕子。テレビ報道の持つ危うさに言葉の力を信じ、インタビューを本領とする著者らしいエピソードが詰まっている。



再発! それでもわたしは山に登る

田部井淳子著
文藝春秋 2016

世界初の女性エベレスト登頂者田部井淳子の2年間の闘病と登山の記録である。山と夫を愛し、人々との出会いを大切に彼女は、闘病中にもかかわらず、登山の楽しみを若い世代に伝えるべく活動し続けた。最期まで明るく前向きな姿勢に心打たれる感動の手記。



ハイスペク女子の憂鬱

矢島新子著
洋泉社 2017

産業医である著者は、高学歴・高収入・高ルックスのいわゆるハイスペク女子がストレスに押しつぶされる姿を見てきた。誰もがうらやむような女性たちが、なぜ精神に不調をきたすのか? 女性の社会進出が進む中、何事にも妥協せず立ち向かう彼女たちが、抱えるストレスの実態を分析。

テーマで読む1冊

ずっと働ける会社

小瀬部さやか著

著者は、自身がマタハラを受けた経験から「マタハラNet」を設立。平成27年には米国の「国際勇気ある女性賞」を日本人で初めて受賞した。本書は、著者がマタハラなど起きない先進企業に体当たりで取材し、どのような人事マネジメントをしているのか、どのような業務体制をとっているのかを企業別に紹介。誰もが幸せな職場こそ会社を強くできる。(花伝社 2016)





時代を拓いた女たち

さわだ みき
沢田 美喜

1901年(明治34年)～1980年(昭和55年)

美喜は、三菱財閥の創業者岩崎弥太郎の長男久弥の長女として、明治34年に東京で生まれる。3人の兄の後に生まれた待望の女の子で、皆大変喜んだが、赤い友禅の着物が全く似合わぬ男の子のような顔立ちだった。母の21日の床上げの日、祖母は自分の部屋に美喜を連れて行ってしまい、母が授乳に通った。それ以後結婚するまで祖母の元を離れずに育つ。

明治40年、東京女子高等師範学校付属幼稚園に入園し、そのまま上の学校に進む。ある時、病気の静養のために大磯の別荘で過ごしていた美喜は、付添いの看護婦が聖書を朗読しているのを耳にする。「汝の敵を愛せよ…」この言葉が耳の中に火のように残った。岩崎の家は代々真言宗で、真言宗の教えのほかに宗教があることを美喜は初めて知ったのだ。自分の持ち物と交換し、学校の友人から聖書を手に入れるが、その度に取り上げられては焼き捨てられた。ついに心配した祖母に学校をやめさせられ、家庭で教育を受けた。

21歳、外交官でクリスチャンの沢田廉三(のちに初代国連大使)と結婚。ブエノスアイレス、北京、ロンドン、ニューヨークなど夫の任地を巡り、美喜は三男一女の母となった。美喜の運命を変えてしまう出会いがあったのは、ロンドンで「ドクター・バナードス・ホーム」という孤児院を訪れた時だった。暗い表情をしている子はひとりもない、皆清潔だ。小・中・高の学校の設備もあり、実習の工場もある。18歳でここを去っても、職に就くだけの技能をもたされるのだ。週に1度このホームにボランティアに行き、人を幸福に

『どんな子どもでも、
人間として生を受けた以上、
立派に育っていかなくてもはなりません』

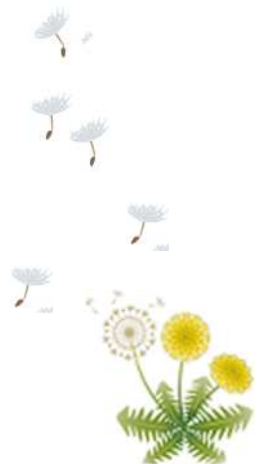
する喜びを知った美喜は心に誓う。「もしやお許したまわば、必ず日本にこの明るい子どもたちのホームを延長させよう」。

昭和20年敗戦。社会は激変し、財閥解体により美喜も後ろ盾を失う。戦後の混乱の中で、占領軍の兵士と日本女性との間に生まれた「混血児」たちは、世間体を慮って無残に産み捨てられていた。生あるもの、生なきもの、それがまるでボロくずのように道端に、川の中に…。その日、混んだ列車に揺られていた美喜の手元に網棚から風呂敷包みが落ちてくる。車内を回っていた警官に命じられ、包みをほどくと幾重にも新聞紙に包まれた黒い乳児の死体が出てきた。その母と疑われる。この体験が混血孤児院をつくることを美喜に決心させた。政府に物納した大磯の別荘を孤児院として使うために買い戻そうと資金集めに奔走する。財閥の令嬢だった美喜が「お金が欲しい」と口癖のようにいい、周囲を驚かせた。昭和23年「エリザベス・サンダース・ホーム」創立。孤児の存在を隠したい進駐軍からは圧力をかけられ、日本人からはパンパン家のマダムと罵声を浴び、石を投げられるなど苦難の連続だったが、美喜が子どもたちの手を放すことはなかった。ホームで育った子どもたちは約2千人、養子縁組をして送り出した子は500人以上。晩年の美喜は、世界各地にいる卒園生を訪ねることを楽しみとした。昭和55年、旅先のスペインで急死。78歳。ホームの名の由来は、一番最初に寄付をしてくれた女性の名である。

参考資料:「先駆者たちの肖像」、「黒い肌と白い心」(写真集)、「GHQと戦った女沢田美喜」

パンパンと呼ばれた女たち

第二次世界大戦後、占領期の日本で主に米兵を相手にした売春婦を、侮蔑的な意味を込めてパンパンと呼んだ。戦後すぐに占領軍のための売春施設が設置されるが、性病が蔓延したため1年で閉鎖。そのために職を失った女たちが街娼となったという。戦勝国の男たちと積極的に交際し、物資が乏しい状況の日本で、華やかな衣服や化粧品で着飾り、配給では手に入らない高価な食べ物を手にし、日本人立ち入り禁止の娯楽施設に入り込んだ彼女たち。その多くが住む家も働く場所もなく、誰からの助けもなく生きるために追い込まれた女たちだった。沢田美喜は自伝の中で、「彼女たちを責めることは間違いだと知った」と言っている。参考資料:「パンパンとは誰なのか」、国会図書館第84回展示資料



にゅーすBOX

女性議員増 推進法案成立へ

女性議員を増やすための議員立法「政治分野における男女共同参画推進法案」が成立する見通し。国や地方議会の選挙で男女の候補者数について「できる限り均等」の擁立を目指す努力義務を課すことが柱となっている。各党は女性議員の増加を目指すものの、次期衆院選候補者に占める女性の割合は1~2割程度で、実現に向けたハードルは高い。

児童虐待 最悪5万4千227人

全国の警察が平成28年、児童虐待の疑いで児童相談所に通告した18歳未満の子どもが5万4千227人(前年比46.5%増)と、12年連続で過去最多を更新。子どもに「死ぬ」などと暴言を吐いたりする「心理的虐待」が3万7千183人で全体の68.6%を占めた。この中で最も多かったのが子供の前で配偶者らに暴力をふるう「面前DV」で、2万4千998人だった。虐待の加害者は、実父が最も多かった。

東京都 不妊検査に助成

東京都は平成29年度から、不妊治療への支援策を拡充し、検査費用5万円を上限に助成することとした。妻が34歳以下で初めて検査を受ける人を対象とし、夫も検査を受けることを条件にする方針。

保育所申し込み 妊娠中からOK

厚生労働省は、市区町村に対し、妊娠中から認可保育施設の利用申し込みを受け付けることを求める通知を出し、対応を促す方針。現在も出生前から受け付けられるが、認めていない場合もある。保育施設を探す「保活」の負担を減らすのが狙い。

男女の賃金格差 解消遠く

厚生労働省の平成28年調査によると、フルタイムで働く女性の平均賃金は月額24万4千600円と3年連続で最高となった。男性の賃金の73%となり、男女格差はこの20年で10ポイント縮まった。また管理職に就く女性の割合は9.3%で過去最高だった。

ひとり親 教育訓練助成金拡充

厚生労働省は平成29年度から失業したひとり親の教育訓練への助成金を拡充し、補助率を現在の2割から6割に引き上げる。教育訓練は、離職者等がキャリアアップのために厚労省が指定する訓練を受講できる制度。職業訓練を受けやすくし、失業したひとり親を切れ目ない就職に結びつけていく。

生涯未婚率 上昇続く

国立社会保障・人口問題研究所の平成27年調査で、50歳まで一度も結婚したことがない人の割合を示す「生涯未婚率」が男性・23.37%(4人に1人)、女性・14.06%(7人に1人)となった。前回調査(平成22年)から男女ともに3ポイント以上増え、過去最高を更新した。平成28年公表の出生動向基本調査によると「結婚資金」や「結婚のための住居」の確保が障害と考えている人が多い。

性暴力被害者総合支援拠点 全都道府県に

性暴力の被害者が、産婦人科での診察や検査、カウンセリング、警察への連絡などの総合支援を1か所で受けられる「ワンストップ支援センター」が、全都道府県に整備される見通しになった。平成29年1月末現在36都道府県に設置。被害者がつらい経験を何度も説明しなくてもいいよう負担を軽減し、たらい回しや泣き寝入りを防ぐのが目的。

男性育休取得 7.4%

東京都の平成28年度男女雇用平等参画状況調査によると、都内男性の育児休業取得率は7.4%となった。前年度より3ポイント上昇したが、低水準にとどまった。厚生労働省の「くるみん認定」(従業員にとって子育てしやすい企業を示す)では、平成29年度から男性の育児休業取得率が7%以上であることを要件に加えた。

性同一性障害 2万2千人診断

日本精神神経学会の研究グループがまとめた調査結果によると、平成27年末までに心と体の性が一致しない性同一性障害(GID)で国内の医療機関を受診し、診断された人は、延べ2万2千人に上った。実際のGID当事者は、さらに多いとみられ、受け皿の整備が求められる。

平成28年度練馬区民意識意向調査結果公表

練馬区は、区民意識意向調査を毎年行っているが、平成28年度は区の施策および評価や区民参加と協働などについて調査を行った。その結果、住みごこちへの評価は「住みよい」などの肯定的評価が9割台半ばを占めた。肯定的評価はこの3年間で着実に増加している。住みよいと感じるところは「みどり豊かで環境が良い」が約5割で最も多かった。

世界の国会議員 男女半々まで50年

列国議会同盟(IPU)と国連ウィメンの調査によると、世界の国会議員に占める女性議員の割合が伸び悩んでいることが分かった。このペースでは、男女半々になるまで50年かかるという。平成28年の女性国会議員の比率は世界平均で23.3%。日本は、大きく平均を下回り9.3%で193か国中163位。

